

小布施町立保育所等整備基本計画・基本設計策定業務
公募型プロポーザル説明資料

本資料は、「小布施町立保育所等整備基本構想」に基づき、基本計画及び基本設計の策定業務を担うパートナーを選定するためのプロポーザル説明資料です。

本業務は、町がこれまでに取りまとめてきた現状課題や将来推計、整備方針などの「試案」をベースにスタートします。まずはその内容を専門的な視点でブラッシュアップし、町民の皆さまとともに進める意見聴取の「たたき台」となる基本計画・基本設計案を策定していただきます。

その後、そのたたき台をもとに住民や関係者と対話を重ね、出されたご意見を的確に反映させながら、丁寧な合意形成を通じて計画をまとめていきます。

なお、本資料に記載している事業の背景や基本方針などは、これまでに寄せられた様々な要望や意見を基に整理したものです。したがって、今後「たたき台」となる案を策定し、対話や検討を進めていく過程において、記載内容のすべてが最終的な計画にそのまま盛り込まれるとは限らず、新たな視点やニーズが追加されることも十分に想定しております。

小布施町の歴史や風土を深く理解し、「町民と行政が一体となったまちづくり」とともに推進して下さるパートナーを募集します。計画・設計から合意形成にいたるまで、豊富な実績と提案力を活かし、包括的に伴走いただける体制を持った事業者の皆さまからのご応募をお待ちしております。

1. 本業務の進め方とデータの取り扱い

本業務をスムーズに進めるため、町ではこれまでに人口シミュレーションや保育需要予測、面積基準などを独自の試案として作成しています。これらの基礎データは専門的な検証が必要となるため、プロポーザルの段階では非公開とさせていただきます。

契約締結後、受託者の皆さまへ町が保有するデータや試案を共有いたします。まずは専門的な知見からデータを改めて検証し、精度の高い「計画の素案」を一緒に作り上げることから業務をスタートしていただきます。

2. 小布施町のアイデンティティとプロジェクトの意義

今回の保育施設は、単なる行政施設の建て替えではありません。小布施町の歴史や美しいまちなみ、そして町民の皆さまと協力してまちを良くしてきた「協働のまちづくり」の精神を、次の世代へ引き継ぐ大切な拠点となります。

(1) 歴史と風土の継承(葛飾北斎、栗の町、美しいまちなみ)

- ① **文化の香りと美意識：**葛飾北斎などの芸術家に愛され、伝統的な栗菓子や美しいまちなみが残る小布施町。この温かい風土や美意識に調和し、子どもたちが毎日自然な美しさに触れながら感性を育めるデザインを目指します。
- ② **自然と風土の調和：**千曲川や北信五岳に囲まれた豊かな自然を感じられる素材選びや、

周囲の風景に溶け込むような建物の配置・外観を期待します。

(2) 「修景(しゅうけい)」と「協働」にみる小布施のまちづくり精神

- ① 「外はみんなのもの、内は自分たちのもの」：小布施町が誇る「修景」によるまちづくりは、町民の皆さんが自分の庭を公に開き、誰もが歩きたくなる美しいまちなみをつくってきた「オープンガーデン」などの精神に基づいています。今回の保育所も、地域に閉ざされた場所ではなく、地域社会へ温かく開き、交流が生まれる設計を目指します。
- ② 「町民主体」による合意形成の伝統：行政が一方向的に進めるのではなく、現場の保育士、保護者、そして町民が主役となり、みんなで意見を出し合いながら創り上げるプロセスそのものが「小布施らしさ」の体現となります。

3. 事業の背景と基本方針

(1) 施設の老朽化とダウンサイジング(面積縮小)の必要性

- ① わかば保育園及びつすみ保育園の老朽化と統合：現在、わかば保育園及びつすみ保育園の両施設は、建設から長い年月が経過し、建物の老朽化が深刻な課題となっております。子どもたちの安全確保は保育の根幹であり、現行の施設において耐震性やバリアフリー対応、衛生管理等の面で現代の保育ニーズを満たすことが困難な状況です。
- ② 財政上の制約と削減目標：「公共施設等適正管理推進事業債(集約化・複合化事業)」を適正に活用するため、新園舎の延床面積は、既存 2 園の合計延床面積(現状：約 1,864 m²)から縮小させる「ダウンサイジング」が必須要件となります。
町全体の保育需要に対しては、本業務の対象施設である「わかば保育園とつすみ保育園を統合した新園舎」に加え、「新たに誘致する民間園(0～5 歳児を対象とした各学年 1 クラスずつの標準的規模を想定)」及び「既存の認定子ども園栗ガ丘幼稚園」の 3 施設でカバーする計画です。新園舎の建設規模については、これら他園の受け入れ実績や持ち上がり(進級)を考慮した定員推計に基づき、適切なダウンサイジングが図れるよう試算を行っています。

(2) 需要予測と定員・保育スペースの考え方

将来人口シミュレーションに基づき適正定員を設定。国基準を上回る町独自の手厚い職員配置や設備の基準を前提としながら、以下の物理的なスペース制約(ダウンサイジング要件)を両立させてください。

- ① 限られた面積での「ゆとり」創出と「認定こども園栗ガ丘幼稚園」の応用：国が定める最低基準面積では、全員での「午睡(お昼寝)」や、机を並べて行う「グループワーク・食事」の際に空間が非常に手狭となり、安全かつ多様な保育活動を展開するには十分ではありません。そこで、保育室面積におけるゆとりについて、国の基準の 1.2 倍相当を目指します。ただし、物理的な面積を単純に広げるのではなく、小布施町内の「認定こども園栗ガ丘幼稚園」にみられるように、保育室単体ではなく、隣接する廊下やワークスペース、アルコーブ等をも一体的な活動空間として捉え、園舎全体の機能的なつな

がりと広がり計画することで、限られた延床面積の中で「面積以上の広がりゆとり」を創出するクリエイティブな空間構成を求めます。

- ② **子どもの主体的な活動を1日通して保障する工夫：**従来の保育形態にありがちな「午前中の制作や遊びが、昼食や午睡のタイミングで片付けを余儀なくされ、午後に継続できない」という課題をクリアする設計アプローチが必要です。例えば、仕切られた食事スペース、段階的なゾーニング、あるいは活動を広げたままで置いておける「遊びの継続スペース」を保育室の一部や廊下・共有スペース等に工夫して配置することで、子どもの熱中や探究心、遊びが1日を通して、あるいは翌日以降も途切れることなく持続する環境を目指します。
- ③ **安心・安全を徹底するアレルギー対応給食室の計画：**食物アレルギーを持つ子どもたちが日常の給食を安全に食べられるよう、アレルゲンの交差汚染(コンタミネーション)を防止する「専用調理スペース(あるいはアレルギー専用調理室)」の設置や、調理・配膳における安全性確保のための専用動線、調理現場での視認性の高い機器・収納配置など、アレルギー対応に配慮した給食室設計を要件とします。
- ④ **多様化する保育ニーズ(特別支援・医療的ケア)への対応：**発達支援を必要とする園児への個別アプローチや、医療的ケアを安全かつ集中して行える「専用のケア・支援スペース(多目的相談室や個室)」を現代の保育ニーズを捉えた設備を要件とします。
- ⑤ **保育の質を支える機能的な「職員室」と作業環境：**現場職員の負担軽減と業務効率化のため、職員同士のミーティング、園児の指導計画・記録作成、教材制作といったバックヤード作業を円滑かつ快適に行える「機能的な職員室(ワークスペース)」を現代的な視点で整備することを要件とします。

(3) 建設・引っ越し・民間参入(民間保育園誘致)の基本方針

- ① **移転・工事ロードマップの最適化：**園児及び現場保育士に過度な負担をかけないための、合理的かつ経済的なステップ移転・工事計画を策定してください。
- ② **新公立園と民間新設園の役割分担：**統合1園化によるマンモス化を防ぎ、地域の教育環境を多様にするため、「新公立1園」と「民間新設園1園(新規誘致)」の受入体制を計画しています。民間保育園がスムーズに町に定着し、質の高い保育を協働して提供できる受け入れ体制づくりを行います。※なお、本業務における直接の設計対象は「新公立1園」となりますが、基本計画段階では民間園の誘致受入計画の検討も業務範囲に含まれます。

(4) AI・ICT等技術の導入による「未来型保育環境」と「現場負担の軽減」

保育の質を高めつつ、現場の事務負担を減らすためのスマートなインフラを設計に組み込んでください。

- ① **保育室内のセンシング環境の統合：**子どもたちの見守りをサポートするセンサー類や、室内の温度・湿度・CO2濃度を測定する機器を設置しやすい電源・Wi-Fi環境の整備を要件とします。

- ② ICTを活用したシームレスな登下園支援動線：玄関エリアにおける登降園システムの設置スペースや、保護者の動線計画を要件とします。
- ③ 庁内LAN環境の構築：本庁舎と保育園をつなぐネットワーク環境の構築を要件とします。

(5) ゼロカーボンの推進

小布施町の持続可能なまちづくりの方針に合わせ、環境に優しく快適なエコ園舎を目指します。

- ① 財政支援の適合：環境配慮型公共施設整備への各種財政優遇措置の基準適合を視野に入れた、確かな省エネ計算及び仕様を検討してください。
- ② 高断熱・高気密かつ「自然との共生」を図る設計(パッシブデザイン)：日射制御や自然通風といった小布施の風土(千曲川からの風、北信五岳の恩恵等)を活かした自然エネルギー活用に加え、建物の断熱・遮熱性能を徹底的に高めることで冷暖房負荷を最小化する設計を検討してください。
- ③ 再生可能エネルギーの活用：地域特性に合わせた太陽光発電設備、木質バイオマスの導入検討、エネルギーの「見える化(HEMS/BEMS)」による子どもたちの「環境学習(エコエデュケーション)」を検討してください。

4. 本業務における主要要件と事業者へ求める役割

(1) 建築士が「初期」から参加する体制

計画を考えるコンサルタントと、設計を行う建築事務所を分けず、最初から建築士がチームに加わる体制を求めます。

(2) 保育現場の工夫を引き継ぐ「メンテナンスしやすい設計」

小布施町の保育現場では、これまで保育士の先生方が大切に園舎を手入れし、愛着を持って使い続けてこられました。その素晴らしい姿勢を受け継ぎつつ、日々の負担を減らすための設計を求めます。

- ① シンプルかつ高耐久な建物設計：意匠性を優先した複雑な構造を避け、日常の清掃や安全確認がしやすい見通しの良い構造を検討してください。
- ② 掃除しやすく長持ちする素材：ワックスがけなどの重労働を減らし、特別な専門業者を呼ばなくても日常的な手入れで美しさを保てる床材や建材を検討してください。
- ③ 現場の知恵を活かした収納や水回り：収納の開閉のしやすさ、洗い場、洗濯スペースなど、実際の保育士の動きに合わせた使い勝手の良いバックヤードを検討してください。

(3) 小布施流「協働」を体現する、きめ細やかな合意形成・伴走支援

小布施町の伝統的な「町民主体」のプロセスを最重視し、以下のステークホルダーに対して深い納得感をもたらす説明会や意見収集(ワークショップ等)を企画・運営し、合意形成を「伴走型」で支援していただきます。(※設計期間中のワークショップ等開催数は、全体で4回程度を想定しています)

- ① **現場保育士・栄養士・調理師**：日常の保育・調理動線、手入れしやすい設備要件、アレルギー対応、避難動線など、実務に裏打ちされた声を直接設計へ取り入れてください。
- ② **保護者・子ども**：送迎時の安全性、園での過ごしやすさ、保護者のコミュニティスペースのあり方などについての意見を取り入れてください。
- ③ **地域町民**：まちなみや周辺景観への調和(修景の精神の反映)、開放的なスペースのあり方、防災拠点としての機能などを地域町民の皆さんの意見を取り入れてください。
- ④ **町議会・審議会など**：制度の適合性、コストの合理性、将来の維持管理計画について、説得力ある説明資料を協働で作成し、伴走説明をしてください。
- ⑤ **公立大学法人長野県立大学**：連携協定に基づき、地域還元と連動した人材育成を推進しています。学生が設計会議などの実践プロセスに参画し、現場の課題解決に携わること、地域への愛着と当事者意識の醸成を図ります。これらの経験を通じて、学生の町内への定着・還流を促し、将来的に町の保育園へ就職する「未来の保育士」を育成へにつなげていきます。

5. 業務プロセスと成果物

フェーズ	主な業務内容・伴走支援タスク
① 試案の検証・精緻化	・ 人口推計、既存保育施設の現状分析、定員規模(年齢区分ごと)、及び財政(公共施設等適正管理推進事業債(集約化・複合化事業)、及び環境関連補助金の適合確認 ・ 既存2園との面積削減シミュレーション ・ 建設・引っ越し・民間参入の受入・旧園舎解体シミュレーション
② 基本計画・基本設計案の策定	・ 小布施の歴史・風土に寄り添う景観配置設計、空間レイアウト、ゾーニング、安全対策 ・ 保育士等の日常的な美化・清掃負担を極力抑えつつ、サステナブルに維持管理しやすい仕様・建材の選定 ・ 限られた延床面積の中で体感的な広がりを生むゆとりある保育室、廊下の多目的機能化等による園舎全体のゆとり空間創出、活動の中断を避ける1日継続可能なレイアウト、アレルギー対応の専用調理室・設備、医療的ケア室、機能的な職員室等の設計要件の定義 ・ AIやICT機器等(午睡センサー、登降園システム等)のシームレスな導入に対応できる配線・インフラ等のレイアウト設計、庁内LAN環境の仕様の定義。環境性能・省エネ仕様の定義。 ・ 新園舎建設、引っ越し、旧園舎解体ロードマップの策定
③ 町民主体・協働の意見聴取	・ 保護者、町民、町議会、審議会、保育士、栄養士・調理師、各支援に従事する者(子ども家庭支援センター、保健センター等)、庁内関係部署(都市建設係、広報情報係、環境グランドデザイン推進室な

	ど)に対する説明 ・ スライド・視覚的資料(パース等)の作成支援、対話型ワークショップ等(計4回程度を想定)の企画・運営・ファシリテーション
④ 意見反映と合意・計画の確定	・ 対話で得られた要望を建築士が総合的に検証し、安全性・法規性・美観、並びに日常的な維持管理のしやすさを考慮しつつ、設計案及び計画書へ直接反映
⑤ 成果物の納品	・ 最終納品物：小布施町立保育所等整備基本計画、基本設計図書(景観配慮、設計図面、配置計画、手入れ・メンテナンス方針(省力化床材等の選定基準含む)、AI・ICT 設備インフラ計画、環境配慮等の設計方針、アレルギー対応調理室や特別支援・職員室等の現代的設備プラン、廊下等の複合的活用、活動持続動線計画、移転・工事ロードマップ、民間誘致受入計画等を含む)

6. プロポーザルにおける評価の重点項目

各提案の審査にあたっては、以下の3つの評価軸を重点的に審査します。

【軸1:デザイン・風土調和、及び面積縮小と「ゆとり」の両立手法】

- ✓ **小布施の風土・歴史・景観への理解とデザイン力：**小布施独自の「修景」や美しいまちなみ、歴史的背景を理解し、次世代へつなぐ幼児保育空間として魅力的な景観・空間提案能力。
- ✓ **面積縮小制約と「空間のゆとり」の両立手法：**全体の延床面積縮小(ダウンサイジング)を行いながら、それを窮屈に感じさせない機能的かつ可変性の高い設計・計画提案能力。
- ✓ **園舎全体の有機的連携と子どもの「遊びの継続性」に対する設計アイデア：**「認定こども園栗ガ丘幼稚園」の応用に見られる、廊下や共有スペース等の複合的な空間設計を反映し、園舎全体を機能的かつゆとりある活動空間として構築できるか。また、食事や午睡等の生活リズムを伴いながらも、子どもの1日の継続的な探求心・活動の連続性を片付けることなく支えるレイアウトや動線工夫の提案能力。

【軸2:先進技術・高環境性能・サステナブルな維持管理・現代的保育ニーズへの対応力】

- ✓ **AI や ICT 等の未来型保育環境への対応力：**午睡チェックセンサーや登下園システムなど、最新のデジタル・AI・ICT 技術をストレスなくスマートに使いこなせる、柔軟かつ高機能的なインフラ配置・空間設計提案能力。
- ✓ **優れた省エネ性能へのアプローチ：**先進の環境性能(太陽光、自然通風・日射等のパッシブデザイン、木質バイオマスなど)を最適に組み合わせ、かつ補助金や財政優遇(交付税措置等)を確実に引き出せる高い省エネ設計・実証力・提案能力。
- ✓ **日常的機能性とメンテナンス性の高い設計提案(働き方改革への配慮)：**保育現場の日常的な清掃・美化の負担を抑えつつ、長寿命で手入れがしやすい設備・動線・建物構造の具体的なアプローチやアイデア(ノンワックス床材の採用等、保育士の作業負担を軽減

する提案能力)。

- ✓ **現代的な保育・就業・給食ニーズを捉えた空間設計プラン：**コンタミネーション(交差汚染)を安全に防止できる独立構造・配置を伴う「アレルギー対応調理室(給食室)」のレイアウト設計、特別支援や医療的ケアを支援する専用個室、及び保育士が効率的に事務・作業を行える「機能的な職員室」などの現代的機能要件への優れた提案能力。

【軸 3:協働・合意形成プロセス及び実施体制】

- ✓ **町民主体・協働を重んじる合意形成プロセスのデザイン：**行政主導ではない、関係各者の声をしっかりと引き出し合意へと導く、小布施町ならではの「協働のまちづくり」に寄り添う現実的かつ効果的なコミュニケーションプラン・ワークショップ計画が描けているか。
- ✓ **建築士の初期コミット体制：**計画策定段階から直接建築士が耳を傾け、意見をその場でダイレクトに設計(空間配置)へ落とし込む即応体制の計画。